

Episode 03

藤崎町産の農産物を活用した
加工品等を製造し、地域活性を目指す。



R*A BASE
あさりりさと
浅利 梨郷さん(藤崎町)
令和2年1月、藤崎町の農産物を活用した食品加工業を創業。

「どのような支援を受けましたか？」
創業を考え始めた段階で相談しました。ゼロからのスタートだったので、創業までのスケジュールや資金借入れのための資料づくり、原材料の仕入れから販売までの全工程を一人で行なうためのノウハウなど、あらゆる面でさまざまなアドバイスをいただきました。ほかにも販売先を紹介していただくなど、縁をつないでいただきました。

「支援を受けた感想は？」
創業までは4か月ほどでしたが、ちよつとしたことでもよく話を聞いてもらい、次にやるべきことを確認しながら先に進むことができました。創業直後に新型コロナウイルスの影響で事業の方向性を見直すことになりましたが、相談できる支援制度があつて本当に心強かったです。各分野の専門家からもアドバイスをいただけて、今でも定期的に相談に乗ってもらっています。

担当IMから、支援した印象



浅利さんは、筋が通っていないながら、状況に応じて臨機応変にシフトチェンジできる方という印象です。コミュニケーション能力の高さを見習いたいところです。

(公財)21あおもり産業総合支援センター IM
おくざき ちえこ
奥崎 千詠子さん

「農産物加工品をとおして藤崎町の一次産品を知ってもらい、藤崎町に人を呼びたい」と新商品開発も精力的に行っています。



な時、相談できる人がいることが一番の安心感につながります。

Episode 04

「地元に残る子どもを一人でも多く育てたい」
時間をかけて理想をカタチに。



てらこ屋
さかもと たかゆき
坂本 貴幸さん(東通村)
平成30年6月、巡回形式の学習塾を開業し、東通村を拠点にサテライト教室を設置。

「どのような支援を受けましたか？」
地元である東通村は、私が生まれた頃と比べて人口が半分に減っています。将来、地元に残る子どもたちの底上げを図るために学習塾を開きたいと考えていたのですが、塾に通う習慣がない上、一つの場所に多くの生徒を集めるのが難しい土地柄なので、思い描いていた理想と現実のギャップを埋めていく作業が必要でした。そんな時に力になってくださったのがIMの鎌田さんです。事業のビジョンづくりや資金繰りなど、教えていただいた経営ノウハウに基づき、こちらからも

アイデアを提案して事業の実現性を探っていききました。二年ほどの準備期間を経て創業に至りましたが、最初に直面したのは生徒の募集という課題。その点についてもアドバイスをいただきました。

担当IMから、支援した印象

ビジネス目線はもちろん必要ですが、「地域のために」という視点を持って自ら仕事を創っていただける方で、とても尊敬できる起業家さんです。

(公財)21あおもり産業総合支援センター IM
かまた なおと
鎌田 直人さん



集会場やレンタルルーム、居酒屋を時間借りすることでコストを抑えました。広い地域をカバーし、現在は下北地域の4か所で「世界一の勉強法フィンランドメソッド」を提供。



ゲットを明確にできたことがよかつたと思っています。有意義な制度だと思います。